

小・中学校と地域の交流を紹介

みたねの学校

令4 第5号
— 発行者 —
教育活動推進員
渡邊 清彦

ふんばりと元気プロジェクト 地域の方々と交流



金岡小学校で「金小元気プロジェクト事業」が開催され、3年生以上の皆さんが地域の3会場に出かけて住民の皆さんと交流しました。

中嶋会館には児童14名が参加しました。全員の自己紹介に続き七夕の短冊に願いごとを書き笹竿に飾りました。地域の方々は今年もコロナ収束の願いが多かったです。次に子どもたちが考えてきた「こぶたぬきつね」神経衰弱ゲームで楽しみました。ルールを理解するのに少し時間がかかりましたが次第に慣れ楽しく交流していきました。最後はみんな「たなばた」と「校歌」を歌い交流を終えました。終わりの会で山田珠愛さん(3年)は「地域のひとと会話できたのでよかったです。神経衰弱ゲームも楽しかったです。」信太咲郁さん(6年)は「今日の交流会では相手の気持ちを考えることを学んだ。次回も地域の方々の気持ちを考え楽しく交流したい。」と感想を話しました。参加した地域の方々は「楽しかった。」「コロナの影響で子どもたちと接する機会が減ったけど今日

は元気な声を聞くことができよかったです。」「元気をもらいました。」等の感想を話しました。

砂像づくりに挑戦

湖北小学校

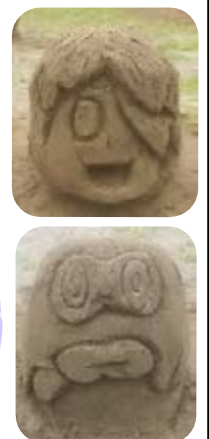
サンドクラフトでの展示に合わせて、湖北小3年生と5年生が釜谷浜で小型砂像づくりに挑戦しました。

5年生は3班に分かれ作業を始めました。事前に粘土で作った模型の写真を参考にコテやヘラを使って大まかな形に削り徐々に細かい形を整えていきました。作業終盤には砂像彫刻家の保坂俊彦さんからアドバイスをいただき細部の修正をして作品を完成させました。作品名「メロン食ベゴン君」を制作した1班の加賀谷裕真さんは「顔が難しかったけど保坂さんからのアドバイスで上手にできた。」



粘土で作った模型より立体的で模様もきれいにできた。」と満足そうに話しました。

3年生は2、3人のグループごとにアニメのキャラクターの絵を見ながらバケツ大の砂像づくりに取り組みました。参加した保護者にも協力してもらいながら約1時間の作業で独創的な作品を完成させました。



3年生の作品

森岳温泉夏まつりに出演

山本中学校

山本中学校吹奏楽部は3年ぶりに森岳温泉夏まつりに出演し、マツケンサンバII、エビカニクス、アイノカタチ、情熱大陸の4曲を演奏しました。息の合った迫力ある演奏で大いにイベントを盛り上げました。部長の信太茄恋さん(3年)は「会場の皆さんと一体となって楽しく演奏することができた。コロナ禍の中、地域の皆さんに自分たちの演奏を聴いていただけたことに感謝しました。」と話しました。



編集後記

金小元気プロジェクトを取材して参加した地域の方々の笑顔が印象的ながらも交流できたことはとても有意義だったと感じました。次回の交流も楽しみにになりました。